

専齋 SENSAI



春の陽光に映えるつつじ・長崎医療センター外来診療棟3F屋上庭園

私の得意分野 ～医長紹介～

- ・当院における救急科専門医の役割

最新医療紹介

- ・新専門医制度～小児科～

TOPICS

- ・新任紹介
- ・長崎大学連携大学院セミナー

- ・米国退役軍人病院留学を経験して
- ・院内臨床研究発表会を終えて
- ・平成28年4月からDPC II群になりました
- ・第33回日本手術看護学会九州地区大会に参加して
- ・職場紹介 ～看護部(外来)～
- ・職場のホープ  
～2年目看護師 水野清美・島田みゆき～
- ・病院食紹介 ～非常食～

連携医療機関の紹介

- ・おび産婦人科医院
- ・海江田耳鼻咽喉科

医療センター講演・研修・テレビ出演等

編集後記

長與 専齋 (1838年～1902年)

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめ採用したのも専齋である。専齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

私の得意分野～医長紹介～

## 当院における救急科専門医の役割

国立病院機構長崎医療センター 救命救急センター センター長 中道 親昭



2016年4月より高山隼人先生の後任にて救命救急センター長を拝命いたしました中道親昭（なかみちかあき）と申します。今回執筆する機会をいただきましたので、救急科専門医の役割についてご紹介したいと思います。

### 当院の救命救急センターについて

救命救急センター及びそこで働く医師に対して、皆さんはどういうイメージされるでしょうか？重症外傷症例などにおいて複数医師が集まり頭部・胸部・腹部・四肢など損傷部位を問わず手術など行う場面や救急外来にて次から次にくる救急車を診療する場面、あるいはあらゆる人工臓器補助装置を駆使して集中治療を行っている場面など想像される方も多いかもかもしれません。

時々TVなどで紹介される救命救急センターというのは、複数科の医師が所属し診療が自己完結できる単独型が多く、上記のような診療が可能です。しかし地方の救命救急センターの殆どはマンパワー不足もあり、当院のように総合病院併設型の救命救急センターとして運用され、救急科専門医と各科専門医との診療連携及び一般病棟との病床連携が必要になります。

### 救急科専門医とは

日本救急医学会において救急科専門医とは、Acute care physician と定義されています。

Acute care physician とは、『病気、けが、やけどや中毒などによる急病の方を診療科に関係なく診療し、特に重症な場合には救命救急処置、集中治療を行うことを専門とし病気やけがの種類、治療の経過に応じて、適切な診療科と連携して診療に当たり、救急医療の知識と技能を生かし、救急医療制度、メディカルコントロール体制や災害医療に指導的立場を発揮する』医師のことを指します。

### 当院における救急科専門医の役割

Acute care physician であることを踏まえて、当院における救急科専門医の役割として

- ・救急車対応を中心とした疾患を問わない急性期の診療
- ・救命救急センター入院患者における原因疾患を問わない重症病態の集中治療
- ・一般病棟、外来なども含めた病院内で発生した急変患者への対応
- ・ドクターヘリを中心とした病院前救急診療
- ・多職種、複数診療科との緊急度及び重症度を考慮した

連携、調整能力

- ・DMAT 及び国立病院機構医療班を中心とした災害医療
- ・医療従事者及び他機関（消防、自衛隊、警察、海上保安庁など）への教育

などがあげられます。

他科専門医の場合、specialist になればなるほど、狭い領域をより深く掘り下げて研鑽していくのに対し、救急科専門医は上記のような多岐にわたる役割を実践すべく広く深く学ぶことが要求されます。また、本では学習が困難な連携・調整能力のスキルアップは必須です。

### おわりに

まだまだ発展途上の救命救急センターではありますが、これからも増え続けると推測される救急医療のニーズに応えられるよう、仲間とともに日々努力していく所存です。今後ともよろしくお願いたします。



## 最新医療紹介

## 新専門医制度～小児科～

小児科部長 田中 茂樹



## 小児科専門研修プログラムについて

新専門医制度において、19基本領域の中で小児科は日本専門医機構に対して当院を基幹施設とするプログラムの申請を行っています。現在、審査を受けている状況ですが概要について報告いたします。

## (1) プログラムの目的

本プログラムでは、「小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成する」ことを目的とし、一定の専門領域に偏ることなく、幅広く研修を行い、「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となることをめざしています。

## (2) 連携病院群について

本プログラムは長崎医療センターを基幹施設とし、長崎大学病院小児科を連携施設、長崎県病院企業団(長崎県島原病院、長崎県五島中央病院、長崎県上五島病院、長崎県杵岐病院、長崎県対馬病院、長崎県上対馬病院)をその他の連携施設として病院群を構成しています。

また、長崎大学病院小児科を基幹施設とするプログラムにおいて、当院は連携施設に登録されています。更に長崎県の複数の総合診療専門医プログラムでの小児領域の研修を行う施設として協力しています。

## (3) 当院小児科の特徴

当院は長崎県の県央地区にあり、県央地区の中核病院ならびに離島医療の親元病院としての機能を有しており、小児科においても同様の役割を担っています。また長崎県唯一の総合周産期母子医療センターに認定されており、未熟児・新生児医療において高度な専門医療を展開しています。小児循環器領域でも心臓カテーテル検査、心臓手術後の全身管理においてチーム医療を行っています。小児神経の中ではてんかん(特に難治性てんかん)に対する検査・治療・外科治療などを積極的に行っています。また、救急医療に対しても1次から3次までの救急患者を受け入れる体制を有しているため、小児科医として欠くことのできない救急疾患の対応、急性疾患の管理も研修できる施設です。

内分泌・代謝疾患・血液腫瘍疾患・腎泌尿器疾患など、専門医が不在の領域の研修については、長崎大学病院小児科で経験できる体制にしています。また、長崎県の特徴の一つである離島医療やへき地医療に関しても、連携病院で研修できるプログラムになっています。

## (4) 研修の実際

実際の研修内容としては図にも示していますが、

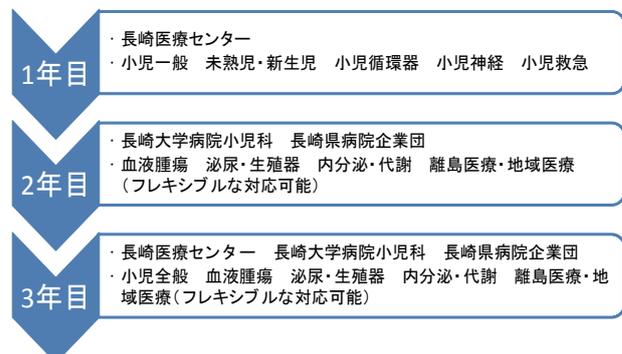
専門研修1年目は長崎医療センター一般病棟で6か月間感染性疾患・アレルギー疾患・呼吸器疾患・消化器疾患・腎泌尿器疾患・循環器疾患・神経疾患を担当医として研修し、周産期センター新生児部門で新生児疾患・先天異常疾患を6か月研修します。

2年目以降は長崎大学病院で6か月、長崎県病院企業団の施設で地域医療・離島医療を経験し、外来での乳児健康診査と予防接種などの小児保健・社会医学の研修と救急疾患の対応を担当医として研修します。

3年目は長崎医療センターを含めた病院群の中ですべての領域を総合的に研修します。

それぞれの施設でどれくらいの期間研修するかは其々、個人の実情に合わせて対応したいと思っています。

## 小児科専門医プログラム



以上、簡単ですが、当院の小児専門医研修プログラムの概要について報告しました。

若い専攻医の先生たちの要望にこたえながら、今後プログラムを育てていきたいと考えています。

## 新任医師紹介



外科医長・肝臓外科研究室長  
**黒木 保**

黒木 保と申します。48歳、宮崎出身です。平成4年に長崎大学を卒業、長崎大学移植・消化器外科に入局、臨床・研究・教育を行ってきました。臨床では消化器外科を中心に小児・呼吸器・内分泌外科と幅広い手術経験を持っております。肝胆膵外科、特に腹腔鏡下手術が専門です。研究では癌分子生物学と再生医学が専門です。「楽しく仕事をする」をモットーに頑張っておりますのでよろしくお願い申し上げます。



外科医長  
**竹下 浩明**

長崎大学腫瘍外科講師を退任し、当院外科医長を拝任いたしました。平成5年に長崎大学を卒業し、研修2年目に当院の前身である国立長崎中央病院で研修を受けたのが、ついこの間のことのように思い出されます。大学では大腸グループのチーフを拝命し、鏡視下手術、大腸癌の集学的治療および炎症性腸疾患に至るまで大腸専門医として高度医療を提供して参りました。幼稚園から高校まで育ったここ大村で患者さんのために尽力いたします。



腎臓内科医長  
**川崎 智子**

長崎大学病院より赴任しました。腎臓内科、血液浄化部門(血液透析や血漿交換、アフレスリス)に携わってまいりました。レジデントとして以前勤務しましたが、大変勉強になり今日の私の基礎を作っていただいたと思っています。未熟ではありますが地域の先生方と連携し、腎疾患医療に貢献できるよう努力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



外科医師  
**北里 周**

4月より外科に赴任した北里と申します。主に肝胆膵外科・消化器外科・内視鏡外科領域を担当いたします。平成11年に長崎大学医学部を卒業し、平成12年にここ長崎医療センター(当時は国立長崎中央病院)で研修を行いました。その後、平成21年から2年間、長崎医療センターに外科スタッフとして勤務し、今回は3回目の勤務となります。先生方と力を合わせて長崎の医療を盛り上げたいと思います。宜しくお願いいたします。



外科医師  
**渡海 大隆**

外科の渡海です。5年前まで当センターに在職しており、また大村市出身ということもあり、「帰ってきた」という印象です。

胃がんや大腸がんなどの消化管の鏡視下手術をメインに行っておりますが、良性疾患や肛門疾患など幅広く対応いたします。患者様にとって最適で負担の少ない治療を心がけて参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



呼吸器外科医師  
**持永 浩史**

4月から長崎医療センターに呼吸器外科医として赴任した持永浩史と申します。初めて勤務する病院のため、慣れるまでは何かと迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、自分のできることを可能な限りやっていきたい所存であります。これからよろしくお願い申し上げます。



消化管内科医師  
**中島 悠史郎**

4月1日付けで消化管内科に赴任致しました中島悠史郎と申します。平成15年に東京医科大学を卒業後、長崎大学に帰郷し、長崎県内の医療機関で勤務しておりましたが、今回初めて当院で勤務することとなりました。炎症性腸疾患を中心に、地域に根ざした医療を心がけていこうと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。



形成外科医師  
**福井 季代子**

4月より、長崎医療センターで勤務させていただくこととなりました。

平成16年大分大学卒、臨床研修後、平成18年に長崎大学形成外科へ入局しました。関連病院で勤務ののち、今回再び長崎県で働くことができ、大変うれしく思っています。

長崎県の中核病院である医療センターで地域の医療に貢献できるように頑張りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。



形成外科医師  
**石山 智子**

4月1日から形成外科医師として赴任してまいりました。未熟な点も多々あり、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、患者様に寄り添った診療

を心がけ、精一杯努めていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



**産婦人科医師  
杉見 創**

産婦人科の杉見創と申します。千葉県出身、北大農学部と長大医学部卒です。5年間当院で勤務した後、2年間上五島病院で離島の産婦人科診療に携わってきました。自然豊かな島で心も体もリフレッシュしてきました。また忙しい日々が始まりますが、女性と赤ちゃん達のために一生懸命頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。



**総合診療科医師  
森 英毅**

平成18年宮崎医大卒、長崎医療センターには初期研修・後期研修の計4年間お世話になりました。その後沖縄県にて6年間プライマリケアを中心に診療を行っておりましたが、今年度より総合診療科で診療させていただくことになりました。ここ数年は離島診療所での診療が主であったため、高度先進医療に戻るのには徐々に緊張しています。他科の先生にお世話になることも多いと思いますが、何卒よろしくお願い申し上げます。



**外科医師  
森田 道**

この度平成28年4月より内分泌乳腺外科に赴任となりました、森田道です。  
長崎医療センターでの勤務は2年ぶりとなります。今後も地域の皆様のお役に立てるよう、全力を尽くす所存でございますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。



**血液内科医師  
中島 潤**

今年度より長崎医療センターに赴任いたしました血液内科の中島潤と申します。白血病、悪性リンパ腫などの造血器悪性腫瘍を中心に血液全般の治療を行ってまいりました。医療センターでの勤務は初めてで電子カルテなどの違いに戸惑っておりますが、少しでも早く慣れて地域の皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



**総合診療科医師  
森 隆浩**

桜の咲く季節に長崎医療センターの門をぐるのは二度目となります。

初期研修医を当院にて2年間修了のち、国立病院機構東京医療センターにて5年間総合内科の鍛錬を積んで参りました。

超高齢化に伴い、患者様は複数の内科疾患を有するようになりました。それぞれの専門家領域だけでは対処が難しい場合や、複合的な疾患を同時に対処する必要がある場合に力を発揮し、全人的に診ることで皆様のお役に立てればと思っております。笑顔を増やすことが目標です。



**外科医師  
森山 正章**

平成22年、長崎大学卒業の森山正章と申します。これまで外科一般診療、特に鏡視下手術を中心に修練を積んで参りました。少しでも患者様のお役に立てるよう精一杯頑張りますので、何卒よろしくお願い致します。



**小児科医師  
橋本 和彦**

この度、平成28年4月より長崎医療センター小児科に赴任しました、医師6年目の橋本和彦です。佐賀大学卒業し、初期研修医の2年間を長崎医療センターでお世話になりました。昨年度は、小児科レジデントとして半年間勤務させていただき、今回は諫早総合病院から再度戻って参りました。本年度もNICU病棟での勤務となります。精一杯頑張りますので、どうかよろしくお願い致します。



**脳神経外科医師  
佐藤 慧**

脳神経外科の新任、佐藤慧と申します。既に締切の過ぎた給与関連の書類を医局受付に持参したところ、この原稿の締切が過ぎていますと指摘され、プリント類を親に全然渡していなかった小学生時代からの進歩のなさを実感しています。外傷、血管障害を含め脳神経外科全般を担当させていただく形になりますが、進歩ある医療を行えるよう努力していきますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

## 新任医師紹介



麻酔科医師  
**島崎 綾子**

はじめまして、このたび麻酔科医師として長崎大学病院より赴任してまいりました、島崎綾子です。出身地は諫早、出身大学は久留米大学です。大学ではワンダーフォーゲル部に所属し、毎年夏に北アルプスを1週間かけて縦走していました。卒業してからはなかなか山に登っていませんが、今年は積極的に登山の機会を作っていこうと考えています。また、日々の麻酔も精一杯頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。



産婦人科レジデント  
**小谷 倫子**

はじめまして。静岡県より参りました小谷倫子と申します。長崎県はもとより、九州自体が初めてで、不安と期待のなかやっております。産婦人科に携わりますが、臓器専門医であるとともに、女性の全身をみるような医療をしていければと考えております。色々な場面でお世話になると思っておりますので、どうか宜しくお願い致します。山と自然が大好きです。



精神科レジデント  
**田中 大三**

初めまして。この度、4月から赴任しました精神科医師の田中大三と申します。昨年までは長崎大学病院で勤務していました。生まれ育ちは長崎市です。

当院はもとより大村で生活することになるのは今回が初めてで、新たな土地での生活に不安や緊張もありますが、大村湾が見渡せる高台にある病院からの眺めがよく気に入っています。県央地域の精神科診療に微力ながら貢献できればと考えております。宜しくお願い致します。



消化管内科レジデント  
**一瀬 仁美**

4月から消化器内科レジデントとして勤務させていただくことになりました。私は医師としての最初のスタートである、初期臨床研修医の2年間を長崎医療センターで過ごしました。たくさんの思い出がある場所であり、この病院で再び働ける機会に恵まれた事を大変嬉しく思います。何かと至らない点が多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、少しでも皆さんのお役に立てるよう、日々精進してまいりますので、宜しくお願い致します。



内分泌・代謝内科レジデント  
**明島 淳也**

内分泌代謝内科、医師5年目の明島淳也です。佐世保総合病院で3年間学び、大学で1年間ご指導頂きました。チーム医療として、先生方のお役にたてるよう一生懸命に頑張ります。よろしくお願い致します。



外科レジデント  
**松村 尚美**

この4月より長崎医療センター外科にて勤務しております松村と申します。元々山口県出身、山口大学を卒業、長崎大学移植消化器外科に所属しております。誠意を持った診療と丁寧な手術、術後管理を心がけて行きたいと思っております。よろしくお願い致します。



外科レジデント  
**糸瀬 磨**

4月より外科で勤務しております医師5年目の糸瀬です。2年間この長崎医療センターで初期研修、その後2年間長崎県上五島病院で外科医師として勤務してきました。外科医としての最初の2年間は自分の力不足を痛切に感じさせられました。古巣へ戻って来てまた初心に帰って学びつつ、地域医療の発展に貢献したいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。



小児科レジデント  
**河田 宗一郎**

4月から小児科・NICUで勤務することになりました、河田と申します。広島県福山市で育ち、兵庫医科大学で6年間を過ごしました。卒業後は少しでも熱帯医学に関わる仕事をしたいという思いで縁もゆかりもなかった長崎で初期研修からお世話になっております。小児科に入局して3年目ですが、こちらでは新生児医療にもしっかりと対応できるよう、勉強させていただきます。感染症と音楽と自転車、カーブが好きです。宜しくお願い致します。



産婦人科専修医  
**五十川 智司**

長崎医療センターで研修医を含めて3年間研修後、上五島病院で1年間研修し、また、当院に異動して参りました。至らぬ点多々あるかとは思いますが、精一杯がんばりますのでなにとぞよろしくお願い致します。



小児科専修医  
**鳥巢 裕一**

NMC総合診療科家庭医療後期研修プログラム3年目の鳥巢裕一です。初期研修の2年間をNMCで過ごし、その後、同プログラムに所属、1年目を総合診療科、2年目は国内留学で北海道家庭医療学センター(HCFM)の更別村診療所で研修を受けてきました。家庭医療のメッカであるHCFMで学んだことを生かし、長崎特有の家庭医療を実践したいと考えています。これからまたお世話になります、よろしくお願いたします。



皮膚科レジデント  
**大久保 滯**

4月より長崎医療センターに赴任しました皮膚科の大久保滯と申します。長崎大学病院と長崎原爆病院での2年間の初期研修後、3年目は長崎大学病院皮膚科で勤務させていただきました。未熟な点多々ありますが皮膚科の幅広い疾患に対応できるよう日々勉強させていただきながら少しでも県央の医療に貢献できるよう頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。



小児科レジデント  
**尾曲 久美**

4月より小児科後期レジデントとして参りました尾曲久美です。地元は鹿児島で、長崎大学医学部入学を機に長崎へ参りました。大村での生活は今回が初めてになりますが、医療センターの窓から見える大村湾の景色を一目で気に入ってしまい、日々癒されています。小児科医としてはまだまだ未熟ではありますが、子ども達の健やかな成長を支えられるよう精進していきます。ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



肝臓内科レジデント  
**林 康平**

4月1日より、肝臓内科レジデントとして務めることになりました医師4年目の林康平と申します。

初期研修は長崎大学病院、原爆病院、後期研修は長崎大学病院で行いました。環境も病院も違い、戸惑うことばかりですが早く慣れて、地域の皆様に少しでもお役に立てるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いします。



総合診療科レジデント  
**道辻 徹**

この度4月1日より総合診療科のレジデントとして勤務させていただくこととなりました医師4年目の道辻徹です。長崎大学病院、長崎原爆病院で初期研修を終え昨年は長崎大学病院でリウマチ膠原病を中心に診療に携わせていただきました。今年からは総合診療科として昨年とは違った視点で勉強させていただきます。まだまだ未熟で皆様にご迷惑ばかりおかけすると思いますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願申し上げます。



小児科レジデント  
**山田 洗夢**

4月からはNICU、10月からは一般小児にて働く予定となっております、小児科のヤマダヒロムと申します。私は小学校の頃は大村に住んでいた時期もあり、その当時は患者としてこの小児科に通ってました。今度は医師としてお世話になることとなりましたが、そういった理由でさらに気合いが入っております。精一杯頑張らせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。



2年次研修医  
**桐野 泰造**

4月より研修させていただきます。研修2年目の桐野泰造と申します。出身大学は長崎大学で、1年目は長崎大学病院で研修させていただきました。1年目は長崎大学病院で内科、小児科を中心に研修させていただきました。2年目は救命救急センター、総合診療科、麻酔科を中心に研修させていただく予定です。1年間いろいろお手数かけるかと思いますが、ご指導の程よろしくお願い致します。



2年次研修医  
**田口 駿介**

研修医2年目の田口です。1年目は長崎大学病院で研修し、この4月から長崎医療センターで1年間研修させていただきます。初期研修最後の年ですので、3年目以降1人の医師としてしっかりと働いていけるよう色々な科を回らせて頂くなかで土台作りが出来たらと思います。日々勉強の精神で一つでも多くのことを身に付けられるよう積極的に頑張っていきたいと思っております。1年間宜しくお願い致します。

## 新任医師紹介



2年次研修医  
**公文 悠二**

上五島病院から赴任しました研修医2年目の公文と申します。NMCのような整った医療環境の元、層の厚い教育スタッフ、また全国から優秀な研修医が集う当院の研修プログラムに参加出来る事を心より光栄に思います。4月より救急科、麻酔科、産婦人科、病理科にて研修予定です。臨床経験、知識、技能全てにおいてハードルが多々あり未熟者ですが、できる限り多くを経験しながら学ばせて頂きます。短期間ではありますが、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



1年次研修医  
**芦澤 博貴**

長崎大学出身の芦澤博貴です。  
高校は長崎西高校出身です。

4月からは3ヶ月間、救急救命センターをまわらせていただいています。

まだごく当たり前の基本的なことですらできておらず、自分のイメージ通りにならない日々が続いています。しかしここ長崎医療センターを研修に選んだ一つの理由として、救急で多くの症例を学びたいということがあったので、早く一つでも多くの知識と手技を身に付けられるように頑張りたいです。



1年次研修医  
**阿部 千鶴**

福岡高校、長崎大学出身の阿部千鶴です。  
部活は硬式テニス部に所属していました。大きく通る声の特徴です。

「最初の1年間の過ごし方で医者人生が決まる」と諸先生方から頂いたお言葉を胸に、医師としての自覚を持ち、プライマリケアの修得のため積極的に学び行動していきたいと思えます。不慣れな点が多く、皆様には多大なご迷惑をおかけすることとは思いますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



1年次研修医  
**伊藤 秀徳**

久留米大学を卒業し、国試浪人を一年経て、四月から長崎医療センターで初期研修を行う伊藤秀徳と申します。自分が生まれ育った長崎に、久しぶりに帰ってこれて嬉しいです。患者さんに信頼してもらえるような医師になれるように、頑張って色々な事を吸収していきたいと思えます。ご迷惑をおかけすることも多いと思えますが、精一杯頑張っていきたいと思えます。よろしくお願い致します。



1年次研修医  
**江口 瑞奈**

研修医一年目の江口瑞奈と申します。出身は佐賀県の佐賀清和高校で、大学は長崎大学です。中高の6年間は弓道部でしたが、大学では心機一転、バレーボール部に入部しました。体を動かすのが大好きなので、これからもバレーボールをしたいです。趣味は映画鑑賞ですが近くに映画館がなくて残念です。医療センターではいろいろな科をまわることができるのでジェネラルに患者さんを診られる医師になりたいと思っています。



1年次研修医  
**大塚 開希**

こんにちは。研修一年目の大塚開希です。今回、無事国家試験に合格し、長崎医療センターで勤務させて頂けることを心から嬉しく思っています。出身大学は長崎大学で、出身高校は諫早高校です。小学生の頃から諫早に住んでおり、度々この病院のお世話になったことがあるので、研修医として勤務する2年間で少しでも恩返しできればと考えています。精一杯頑張りますので、よろしくお願い致します。



1年次研修医  
**川上 勲**

「研修医1年目の川上勲と申します。生まれは福岡ですが、宮崎大学で6年間を過ごしました。和太鼓部とウインドサーフィン部に所属しておりましたので長崎でも何かスポーツをしたいと思っております。

4月より長崎医療センターで研修をさせていただくことになりました。スタッフの皆さんにはご迷惑をおかけすることも多いかとは思いますが、精一杯頑張りますのでよろしくお願い致します。」



1年次研修医  
**川口 雄史**

こんにちは、4月より初期研修医としてお世話になります。長崎大学ボート部出身です。この歴史ある長崎医療センターで初期研修を行えることを光栄に思います。この2年間で多くのことを経験させて頂き、将来の方向性を見定めたいと思えます。まだまだ至らない点ばかりかと思えますが、厳しいご指導をよろしくお願い致します。始めは救命救急センターからスタートですが、同期の仲間と切磋琢磨しつつ頑張ります。



### 1年次研修医 倉田 博基

こんにちは。この度、長崎医療センターで二年間研修させていただくことになりました倉田博基と申します。生まれは大阪で、高校は大阪星光学院高校、大学は長崎大学出身です。小学生のころより剣道をしており、大学でも剣道部に所属していました。未熟な私ですが、この二年間で多くのことを学び成長していきたいと考えています。一生懸命働かせていただきますので、ご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願いいたします。



### 1年次研修医 酒井 洸典

産業医科大学から来ました酒井洸典です。出身高校は福岡県の修猷館高校です。大学時代はバドミントンや大学祭に力を入れていました。この歴史ある長崎医療センターで医師としての第一歩を踏み出せることに喜びを感じています。この2年間で医師としての技術と知識を貪欲に学び、真摯な姿勢で患者さんと向き合っていきたいです。何事にも全力で！をモットーに頑張ります。どうぞご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。



### 1年次研修医 志方 真妃

今年度より、長崎医療センターで研修させていただくことになりました志方真妃と申します。将来は生まれ育った長崎の医療に少しでも還元できるよう、2年間しっかりと勉強し、悔いの残らない研修生活を送りたいと思います。社会人としても1年目のため、ご迷惑をおかけすることが多々あると思いますが、精一杯頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。



### 1年次研修医 末松 孝文

はじめまして。臨床研修医1年目の末松孝文と申します。私は、北九州市出身で、大学も福岡市にある九州大学と純福岡県人でした。今回、長崎県にくることになり、初県外に不安もありました。しかし、大村市と長崎医療センターの雰囲気を感じ、そんな不安は吹き飛びました。2年間の研修期間で長崎の医療に貢献できる医師になれるよう精一杯がんばります。よろしくお願いいたします。



### 1年次研修医 畑地 耕次

初めまして、自治医科大学出身の畑地耕次と申します。

長崎生まれの長崎育ちで、高校は長崎西高校です。

大学は関東だったので毎日耳にする長崎の方言がとても懐かしく心地よいです。

多くの人に支えられ、ようやくスタートラインに立つことができました。

医療の現場で働く先生方の姿はものすごくかっこいいです。僕も先生方のような立派な医師になり、僕を育ててくれたこの地で恩返しができたらと思います。どうか宜しくお願いします。



### 1年次研修医 樋上 翔大

こんにちは。研修1年目の樋上翔大です。

長崎市内にある長崎東高校出身です。大学は、北九州にある産業医科大学を卒業しました。部活は、野球部に所属していました。趣味は、コーヒーをハンドドリップで淹れることで、暇なときに練習しています。

今回、高校生まで生まれ育った長崎に6年ぶりに帰ってくる事ができてとても嬉しいです。まだ右も左も分からない未熟者ですが、精一杯努力したいと思いますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。



### 1年次研修医 三野原 敏文

福岡よりやって参りました三野原と申します。

出身は九州大学で、部活動は剣道部に所属しておりました。この2年間では、初期診療において重要な基礎知識・技術、患者さんやスタッフの方々とのコミュニケーションなどを一つ一つ確実に積み重ねて身につけていきたいと考えております。多くの困難があることと思いますが、剣道で学んだ礼儀と忍耐力で乗り越えていけるよう奮励努力して参ります。よろしくお願いいたします。



### 1年次研修医 村本 奈央

はじめまして。長崎医療センター研修1年目の村本奈央と申します。

私は福岡県出身で、長崎大学を卒業致しました。在学中は水泳部に所属し、練習に励んでおりました。この2年間は、水泳部で培った体力と粘り強さを活かして、患者さん第一をモットーに研修させていただきたいと考えております。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、一生懸命頑張りますのでご指導の程よろしくお願いいたします。



1年次研修医  
吉野 明久

このたび長崎医療センターで研修医として働かせていただきます吉野明久(てるひこ)と申します。幼少期は大村に住んでいました。その大村に帰ってきて仕事ができることを大変嬉しく思っています。まだ医師としてのキャリアが始まったばかりで右も左もわからない状態ですが地域に貢献できるよう精一杯頑張りますのでどうぞ宜しくお願いいたします。



1年次研修医  
渡辺 春香

私は長崎大学出身で、長崎生まれのほとんど長崎育ちです。大学では硬式テニスをしており、他にも球技全般、釣りや囲碁将棋、読書など、ほとんど下手の横好きですが浅く広めの趣味を持っていますので、仲間に入れて頂けると嬉しいです。研修では、今後どの科でも必要になるプライマリな部分の土台をしっかりと作り、知識や考え方だけでなく、様々な手技も積極的に身に付けたいと思います。2年間よろしくお願いします。

TOPICS

長崎大学連携大学院セミナー

臨床研究センター難治性疾患研究部長 小森 敦正

去る3月4日、九州大学医学部病態制御内科学(第一内科/血液腫瘍内科)助教草場仁志先生と同大学別府病院医員田村真吾先生を講師に迎え、長崎大学連携大学院セミナーが開催されました。今回のテーマは”腫瘍内科”。それぞれ「腫瘍内科診療の最前線」、「腫瘍内科医という生きかた」という演題名で、九州大学を中心とした北部九州地区での腫瘍内科診療について講演いただきました。田村先生は当院で初期研修医を終了された、あかしや医師の会同窓生です。「たくさんの選択肢を上手に使い分け、病気に打ち勝てずとも、できるだけ患者さん、ご家族の希望にかなう生活が送れるようにコーディネートするのが腫瘍内科医の役割」

と現在の別府地区での取り組みや、癌幹細胞を標的とした画期的癌治療法の開発を目指した大学院時代の研究についてのお話でしたが、全人的な腫瘍内科医へと成長著しい後輩の姿を見て、頼もしく感じたのは私だけではなかったと思います。また草場先生のお話では、九州甲状腺癌診療ネットワークにおける当院外科前田先生との連携も紹介されました。九州全域で地域を越えて癌化学療法が進歩し、均霑化しつつあることが実感できました。

講師のお人柄もあって、腫瘍内科の最前線と日常が”等身大”にうかがえた、春近い金曜の夕刻でした。

TOPICS

米国退役軍人病院留学を経験して

臨床検査科医師(病理) 黒濱 大和

本年1~2月の2か月間、NHOの後期研修医海外留学制度を利用して米国ロサンゼルス退役軍人病院へ留学する機会を得ました。米国は対GDP医療費は世界最高であるのに対し医療費公費負担割合は先進国中最低であり、国民皆保険制度をとる日本と大きく異なり民間保険と患者負担に大きく依存した医療制度を採用する国です。退役軍人病院は貧困層退役軍人を対象とした完全公費負担の病院で、従って設備は基本的に古く例えば病理部に標本の写真撮影装置がないことなど日本の感覚としては驚くことが多々ありました。反面日本の医療制度がスタンダードではないのだという感覚を養えたのはこの留学での最も大きな収穫でした。異文化との



ロサンゼルス退役軍人病院と筆者

交流は常識を常識と思いきまず多面的な判断をする力を養ってくれると思います。他の若い先生方やコメディカルの方々にもぜひ短期間でも留学をお勧めします。早く留学に送り出してくださった伊東正博病理診断科長はじめ関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

TOPICS

## 院内臨床研究発表会を終えて

臨床研究センター長 八橋 弘

3月7日、14日、15日の3日間、18時からあかしやホールで院内臨床研究発表会をおこないました。発表会では1年間の研究成果をひとり10分以内でプレゼン、学術委員9名が評価をおこないました。当日はフロアから多くの質問やコメントをいただきました。発表者は多職種から構成され、この院内臨床研究発表会は当院のResearch力向上に大きく寄与していると考えています。新年度となり新たな院内臨床研究課題を募集しています。ぜひ応募ください。



### ◇平成27年度 院内臨床研究 課題一覧

No.	申請者	所属	研究課題名
1	岡原 継太	診療放射線部	頸椎カラー装着者におけるdual coil法の検討
2	黒濱 大和	臨床検査科・病理	自己免疫性肝炎における非典型病理組織像を示す症例の病理組織学的特徴の解明
3	林田 健志	形成外科	ドクターヘリで搬入された医療過疎地域の熱傷患者の検討～退院後の状況と今後の展開～
4	皆良田 明美	診療放射線部	散乱線補正処理に関する基礎的検討および他の領域への応用
5	小屋松加奈子	産婦人科	妊娠糖尿病のスクリーニング法の適正化の検討
6	横山 雄一	診療放射線部	CT-AECを用いた放射線治療計画CTの被ばく線量低減の検討
7	日宇 健	脳神経外科	Nagasaki Medical Center-Stroke Hotline (NMC-SHOT)導入による急性期脳梗塞診療への効果の臨床的検討
8	本多 武夫	診療放射線部	*核医学領域の放射線に対するX線防護衣および防護用衝立の遮蔽能力評価- 消滅放射線および <sup>99m</sup> Tcガンマ線に対する検討*
9	池田 敏久	診療放射線部	装置メーカー作業員が使用する校正ソフトウェアによるMLCの精度管理
10	吉田 明美	診療放射線部	同サンプリング間隔におけるCRとFPDの画像評価とトモシンセシスの基礎的検討
11	渡辺 武美	診療放射線部	FDG-PET/CT検査におけるBMIを用いた撮影条件の検討
12	大石 景子	看護部 (県央がんセンター)	セツキシマブ併用による放射線治療患者への皮膚炎に対するトータルマネージメントの検証
13	西條 広人	形成外科	超低出生体重児の褥瘡予防体圧分散寝具の有用性に関する研究

No.	申請者	所属	研究課題名
14	佐藤 圭	臨床検査科	胆管擦過細胞診における液状化細胞診標本を用いたp53蛋白発現の検討
15	江島 遥	臨床検査科	尿検体における細菌定量培養法と試験紙法との比較および抗菌薬使用有無との関連性について
16	株元 和香子	ドクターズクラークセンター	医師事務作業補助者における外来診療補助業務の現状と課題
17	梅崎 靖	産婦人科	コイロサイトーシスが子宮頸部異形成の診断に及ぼす影響
18	牧山 純也	血液内科	*成人T細胞白血病・リンパ腫(ATL)リンパ腫型と診断された症例におけるSouthern blot hybridization (SBH)の検討
19	庄山 由美	統括診療部	N病院における診療看護師(JNP)の役割
20	有働 舞衣	栄養管理室	早期NST介入に向けた取り組みについての検討
21	近藤 高弘	栄養管理室	脂質制限食を摂取した入院患者に対するノンフライ調理法の有用度評価
22	村上 摩利	看護部 (外来)	FEC(エピルピシン)による血管痛の予防と対策～生理食塩水100mlの投与を施行して～
23	三好康広	産婦人科	Kleihauer-Betke testを用いた分娩前後の母体血中HbFの検出に関する研究
24	辻 清和	腎臓内科	当院透析患者における睡眠時無呼吸症候群と合併症について
25	澤田 吉人	臨床検査科	脂肪塞栓症候群における肺胞洗浄液中に出現した脂肪貪食組織球の有用性の検討
26	山口 夢津美	看護部(3A)	看護師離島派遣制度での学びとその後の看護への影響

TOPICS

## 平成28年4月からDPC II 群になりました

経営戦略専門職 河本 卓也

当院はDPC医療機関群II群(高診療密度病院)としての指定を受けました。長崎県内では初めての指定です。

DPC II 群とは、厚生労働省が定めた「診療密度」、「医師研修の実施」、「高度な医療技術の実施」、「重症患者に対する診療の実施」の4つの評価において、何れも大病院本院と同等の高度医療を提供している医療機関として評価したものです。評価の方法として保険診療データ(DPCデータ)に基づく実績にて評価されており、当院の診療実績が客観的に評価された結果です。

また、併せて「総合入院体制加算1」も取得しております。この加算は十分な人員配置及び設備等を備え、総合的かつ専門的な急性期医療を24時間提供出来る体制等々を評価した加算です。この加算を取得するためには、特定機能病院以外であり、精神疾患、救急医療、分娩、開心術、がん診療(悪性腫瘍手術、腹腔鏡下手術、放射線治療、化学療法)など幅広い診療行為を、全ての項目において高い実績基準をクリアしていることが必要です。

以上のようにDPC II 群と総合入院体制加算1の両方取得しているということは、当院が特定機能病院と同等に、がん診療等の高度医療の実績を有し、かつ救急医療や周産期医療等の地域医療にも積極的に取り組んでいる医療機関であるということが認められたと考えます。

### 医療機関別係数について

#### 1. 概要

施設コード	428010066
医療機関名	独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター
貴院の属する医療機関群	II 群
上記の基礎係数	1.0646
暫定調整係数	0.0183
機能評価係数 II (平成 28 年度) ※	0.0707

※ 平成 28 年度の貴院の機能評価係数 II であり、年度内にこの値の変更はない。  
内訳は、本資料の 4 ページに掲載している。



TOPICS

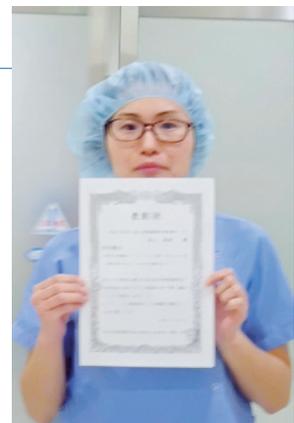
## 第33回日本手術看護学会九州地区大会に参加して

手術室看護師 尾上 美紀

平成27年9月12日に、宮崎県宮崎市 JA・AZM (アズム) ホールで行われた第33回日本手術看護学会九州地区大会に参加しました。今回「手術室火災訓練のシミュレーションを通して見えてきたもの ～複数手術が行われている中での避難を通して～」のタイトルで発表し、最優秀賞に選ばれました。複数科の手術が並列で行われている状況を想定した避難訓練のシミュレーションを行い、情報伝達・患者搬送に関して発表をおこないました。発表の中では複数手術の想定方法における質疑があり、他施設での関心の高さを感じることができました。手術中

の安全な避難方法など沢山課題が残されていますが貴重な体験を今後も活かし避難がいついかなる時でも誰にでもできるように繰り返しシミュレーションを行い患者始めスタッフの安全を守るようにマニュアル作成に励みたいです。

文末で失礼しますが避難訓練に参加協力して下さった医師・手術室看護師の皆様ありがとうございました。



## TOPICS

## 職場紹介 ～看護部(外来)～

外来副看護師長 村上 摩利、 外来副看護師長 作永 しげみ

「おはようございます。お待たせしました。採血番号〇番でお待ちの方どうぞ!!」と患者さんと呼ぶ活気ある声。外来の一日は採血で始まります。

スタッフは子育て中の看護師が8割を占め、急な休みが出て、チームワークで乗り切っています。化学療法認定看護師、リンパドレナージュセラピスト、腎移植コーディネイト担当看護師により専門分野にも力を入れています。

患者数は1日平均 600～700名。朝のミーティングでは、情報共有や伝達事項周知、指差し呼称を行い、気合いを入れて業務にとりかかります。採血、点滴、検査処置介助、検査説明、自己注射・血糖測定指導、入院説明、電話対応、

クレーム対応、救急外来夜勤など業務は複雑多岐にわたります。しかし、「迅速な判断、丁寧な説明と対応」をモットーに限られた時間で、患者のニーズに対応します。また、各部署との連携を図り、安心安全に治療が継続できるようにサポートしています。

患者さんに「この病院を選んで良かった」と思ってもらえるように、スタッフ一丸となって今日も笑顔で外来フロアに立ちます。

患者さんに「この病院を選んで良かった」と思ってもらえるように、スタッフ一丸となって今日も笑顔で外来フロアに立ちます。



## TOPICS

## 職場のホープ ～2年目看護師 水野清美・島田みゆき～

外来看護師長 稲田 律子

昨年の春、「外来化学療法センターでしっかりと教育するように!」看護部長からの命を受け、迎えた2つの大事な金の卵。2名の1年目看護師が外来配置となった。育休復帰のママさん看護師たちが知恵を絞り、愛情かけて大事に大事に育てた。認定看護師の村上副看護師長が化学療法看護のレベル1から熱心に指導教育にあたった。緊張しながら患者さんに話しかける、初々しい二人の表情が新鮮だった。採血を間違えて看護師長から指導を受ける、悔し涙がにじむ。「泣きたいのは患者さんよ!2回も採血されて!」看護師長の厳しい言葉に涙が止まらない。

素直で、頑張り屋の新人看護師たちの2度目の春、患

者さんに指導する姿も様になってきた。「採血ならまかせて!」この一年でそういえるくらい採血にもあたった。今後、二人は更に専門的知識を深め、患者の個性に合った看護を提供するためにアセスメント能力を身につけ、広い視野で診れる看護師目指して前進する。頑張れ外来の金の卵たち、病棟へ異動するときは大きく羽ばたくことだろう!



## TOPICS

## 病院食紹介 ～非常食～

栄養士 荒木 翔太

今回は当院の非常食について取り上げます。

有明海を挟み隣接する熊本県にて地震が起こり、私自身も福岡西方沖地震を経験した思い出が蘇り不安と恐怖にかられました。食事に目を向けてみると今回の地震でライフラインが使用できない施設では、非常食を提供し対応したと伺っております。

いつ起こるかかわからない非常時に備え、長崎医療センターでも600人分の食事と水を3日間(1人あたり9食分)確保しています。普段提供している食事のようにはいきませんが、お粥やカレー・肉・魚、汁物、果物の缶詰、ビスケット類など長期保

存が可能で、栄養が不足しないように準備しています。非常時(災害時)では食べ物が何よりの心の支えとなるはずですが、もちろん、この非常食が使われないことが一番なのですが、皆様におかれましても、非常食の備えは万全かどうか今一度ご確認をお願い申し上げます。



連携医療機関の紹介

●おび産婦人科医院 院長 小尾 重厚

1986年、おび産婦人科医院を開設し2010年4月までの24年間で約5000人の出産がありました。2010年4月からは、より安全なお産をめざし産科オープンシステム・「妊婦健診と産後健診は当院」「分娩は医療センター」に移行しております。

大村地域から始まったICTを利用した地域医療連携ネットワーク「あじさいネット」は長崎県全てを網羅し日本最大の医療連携ネットワークに発展しました。昨年からは、このあじさいネットワークを利用した周産期医療支援システム「すくすくネット」が始まりました。長崎県内の4周産期センター①国立病院長崎医療センター、②長崎大学病院、③長崎みなとメディカルセンター市民病院、④佐世保市立総合病院と「県内の開業産婦人科病医院」が「すくすくネットの同じ画面」で連携しこの4周産期センターの妊婦健診を当院で行っている感覚です。仕事の都合などで転居されても、長崎県内ですくすくネットに参加している病医院であれば紹介状も必要なくなります。また緊急入院時にも必要十分な情報を見てもらえます。

2010年から 当院のすべての分娩はこのあじさいネット、すくすくネットを利用して長崎医療センターで行うようになり、「よ

り安全なお産」を目指すことができるようになりました。

今後とも医療連携をしっかりと保ち、市民の皆様にも身近な医院でありたいと思っています。



〒856-0832 大村市本町223-2  
電話:0957-54-1103 FAX:0957-54-5114

●海江田耳鼻咽喉科 院長 海江田 哲

当院は以前駅前アーケード内(現コレモ大村付近)にありましたが、駅前再開発を機に、平成25年1月17日、現在の大村市三城町に新規開院致しました。

耳鼻咽喉科領域は感覚器を扱う領域で、耳鳴やめまい、嗅覚障害など日常生活の質を大きく低下させる疾患が多いのが特徴です。中々思うような結果が出ない場合も多いのですが、症状を理解してもらう為に画像検査など利用し、じっくりと説明する事を心がけています。手術的に改善が望める疾患に対しては、症例に応じて外来での鼓膜換気チューブ留置術や鼓膜形成術、アレルギー性鼻炎に対するレーザー治療などの小手術を積極的に行い、入院を要する症例に関しては長崎医療センターに紹介し入院の上で加療して頂いています。術後当院に戻ってこられた患者さんに、「紹介してもらってよくなりました。」と感謝されると、自分が執刀したわけでもないのに、何か誇らしげに感じてしまいます。

また、私の子供が一昨年、今年と緊急入院、緊急手術で大変お世話になりました。クリニックの医師としてだけでなく、大村市民の一人としても大村に長崎医療センターがあることを誇りに思っています。これからもよろしくお願ひいたします。



〒856-0031 大村市三城町629-6  
電話:0957-52-3329 FAX:0957-56-8382

## 医療センター講演・研修・テレビ出演等(5月)

## 臨床研究実践セミナー

開催日	時間	開催場所	内容	講師
5月10日(火)	19:00~20:00	臨床研究センター大会議室	易しい医学統計学入門	臨床疫学研究室長:山崎一美先生
5月17日(火)	19:00~20:00	臨床研究センター大会議室	何故、研究をしなければいけないのか?	機能形態研究部長:伊東正博先生
5月24日(火)	19:00~20:00	臨床研究センター大会議室	アクセプトされる論文の書き方	病院解析研究部長:右田清志先生

## CPC

開催日	時間	開催場所	内容	講師
5月30日(月)	18:30~20:00	あかしやホール	51歳女性 難治性腹水と肝硬変を伴った慢性骨髄性白血病の一例	症例担当:清水彩理先生、藤江諒子先生、吉村正太先生 臨床指導:長岡進矢先生、吉田真一郎先生 病理指導:黒濱大和先生

## NST勉強会

開催日	時間	開催場所	内容	講師
5月16日(月)	18:00~19:00	あかしやホール	栄養管理の基礎知識 栄養評価に役立つ検査値	主任栄養士:近藤高弘 検査技師:大崎歩惟

## 院内感染対策勉強会

開催日	時間	開催場所	内容	講師
5月19日(休)	未定	あかしやホール	洗浄・消毒・滅菌と保管	未定

## 大村市呼吸器セミナー

開催日	時間	開催場所	内容	講師
5月24日(火)	19:00~20:00	人材育成センター第4会議室	未定	未定

## 第1回がん化学療法セミナー

開催日	時間	開催場所	内容	講師
5月26日(休)	18:00~19:00	あかしやホール	がん化学療法の基礎1 がん化学療法看護の基本	薬剤師:青木孝喜 がん化学療法看護認定看護師:吉村裕美

これらの講演は、地域の医療従事者の皆様に開放しています。詳細は病院のホームページをご参照下さい。 <http://www.nagasaki-mc.jp/pages/205/>

## ●編集後記

統括診療部長 松岡 陽治郎

## 当たり前のように今ここにあり、奇跡的な事実

長崎医療センターは643床を有する長崎県下第二の規模の病院で、県央地区の基幹病院として高度急性期医療を担っています。九州地区の国立病院機構の病院で当院と同じく高度急性期医療を付与されている大規模病院として、九州医療センター、熊本医療センター、鹿児島医療センターなどがありますが、これらと当院とで最も異なっている点が立地条件です。九州医療センターをはじめ、他の病院は県庁所在地でかつ50-100万人規模の都市に立地しているのに対し、当院は人口10万人にも満たない一地方都市にあることです。全国を見回しても、当院のような大規模病院が一地方都市にあって存続していること自体が希有で、“当たり前のように今ここにあり、奇跡的な事実”とはこのことを指しています。

では、この奇跡がどうして成り立っているのか?

まず、当院の前身であった海軍病院の規模は当時全国有数で、創設時に相応の入れ物が既にあったこと。そして、昭和44年に院長に就任された横内寛先生(故人、昭和57年没)の指揮下に、救急医療、離島・僻地医療、周産期医療、国際医療協力、研修医・看護師教育などの当時他の病院が手を出していなかった領域にいち早く着手し、患者を広域から集め、長崎医療センターのブランド力を確立していったという経緯があります。職員のがんばりも大きかった。職種にかかわらず、次から次に打ち出される新機軸によく応え日夜診療に邁進していたと聞きます。

当院の現状は横内先生の打ち出した方針の延長線上にあり、50年後も通用する方針を考え出した横内先生の先見の明に今更ながら驚嘆するのですが、しかし、日本が高度成長期でイケイケ路線をひた走っていた当時と人類がまだ経験したことのない高齢化社会を迎えようとする今とでは医療のあり方も変わってしかるべきです。当院は高度急性期医療を担うべく、地域の基幹病院として生き残りをかけて江崎院長の下に結束して改革を進めていこうと考えています。変化の激しい当節では50年は無理ですが、今後10年間は持続する枠組みを作り上げていきたいと思えます。奇跡を起こし続けるためには変わらなければなりません。皆様のご協力ご支援のほどを何卒よろしく願いたします。



在りし日の横内寛院長

# 外来診療担当医一覧表

(★は新患対応)平成28年5月1日～

		月	火	水	木	金	
総合診療科	第1新患	★ 辻 徹 ★ 大野 直義	★ 荒木 利卓 ★ 川原 知瑛子	★ 森 隆浩 森 英毅	★ 森 英毅 森 隆浩	★ 川口 勝輝 ★ 和泉 泰衛	
	第2新患		和泉 泰衛	荒木 利卓		大野 直義	
	内科 専門外来	肝臓 (消化器)	★ 内田 信二郎 ★ 戸次 鎮宗 ★ 長岡 進矢 ★ 阿比留 正剛	★ 佐伯 哲 ★ 戸次 鎮宗 ★ 内田 信二郎	★ 八橋 弘 ★ 小森 敦正 ★ 山崎 一美	山崎 一美 ★ 長岡 進矢 ★ 小森 敦正 ★ 橋元 悟	★ 阿比留 正剛 ★ 橋元 悟
			消化管	西山 仁	★ 後藤 高介 福田 浩子	西山 仁	
		内分泌・代謝	明島 淳也	藤田 成裕(糖尿病) ★ 池岡 俊幸	藤田 成裕	池岡 俊幸(再来のみ)	
		腎臓	★ 辻 清和		川崎 智子 ★ 山下 鮎子	山下 鮎子 ★ 川崎 智子	辻 清和 ★ 川崎 智子
		循環器	於久 幸治	春田 真一	★ 田中 規昭	松尾 崇史	深江 貴芸
		呼吸器	★ 久富 恵子 土井 誠志	★ 永吉 洋介	長島 聖二 ★ 土井 誠志	★ 岩永 直樹	★ 長島 聖二 久富 恵子
		血液	★ 中島 潤 北之園 英明	★ 牧山 純也	★ 吉田 真一郎	牧山 純也 中島 潤	★ 吉田 真一郎
		神経		岩永 洋	福島 直美(午前は再来のみ)		岩永 洋
		リウマチ・膠原病	右田 清志		岩永 希	岩永 希	
		循環器			於久 幸治(再来のみ)		
	午後	神経	山田 寛子				
		血液					★ 北之園 英明
	小児科	午前	★ 田中 茂樹(神経) ★ 橋本 和彦(新生児・乳児) ★ 桑原 義典(一般) ★ 本田 涼子(一般・神経)	★ 安 忠輝(一般) ★ 瀧口 陽(新生児・乳児) ★ 内田 信宏(一般)	★ 内田 信宏(一般) ★ 和泉 啓(内分泌) 本田 涼子(再来のみ) ★ 青木 幹弘(新生児・乳児)	★ 桑原 義典(一般) ★ 庄司 寛章(一般)	★ 田中 茂樹(神経) 本村 秀樹(心臓・再来のみ) ★ 青木 幹弘(一般) ★ 安 忠輝(一般)
		午後	本村 秀樹 桑原 義典(心エコー)	田中 茂樹(神経) ★ 本村 秀樹(心臓)	一ヶ月健診	青木 幹弘 橋本 和彦 瀧口 陽 庄司 寛章 土居 美智子	
	精神科	★ 橋口 知幸 蓬萊 彰士(午前のみ)	★ 橋口 知幸 蓬萊 彰士 田中 大三	★ 蓬萊 彰士 橋口 知幸	★ 蓬萊 彰士 橋口 知幸 田中 大三	★ 田中 大三 橋口 知幸	
	皮膚科	★ 石川 博士	★ 大久保 滯	★ 石川 博士	★ 大久保 滯	★ 石川 博士	
外科	★ 黒木 保(肝・胆・膵・消化器) ★ 徳永 隆幸(小児) ★ 北里 周(肝・胆・膵・消化器)	★ 前田 茂人(乳腺・甲状腺) ★ 渡海 大隆(消化管) ★ 森田 道(乳腺・甲状腺)	★ 藤岡 ひかる(肝・胆・膵・消化器)	★ 前田 茂人(乳腺・甲状腺) ★ 谷口 堅(食道・胃・大腸) ★ 森田 道(乳腺・甲状腺) 永田 康浩(食道・胃・大腸)	★ 竹下 浩明(胃・大腸) ★ 久芳 さやか(乳腺・甲状腺) 宇賀 達也(乳腺・甲状腺)(午後のみ)		
	呼吸器外科		★ 田川 努 ★ 持永 浩史				
心臓血管外科	午前		★ 有吉 毅子男 ★ 尾立 朋大	濱脇 正好(再来のみ)	★ 濱脇 正好(小児心臓外科) ★ 有吉 毅子男 ★ 尾立 朋大 ★ 小野 智恵 ★ 佐藤 慧		
脳神経外科	★ 戸田 啓介 ★ 牛島 隆二郎	★ 堤 圭介	★ 日宇 健		★ 浅原 智彦 ★ 内山 迪子		
整形外科	★ 浅原 智彦 内山 迪子	★ 熊谷 謙治 木寺 健一 山田 周太 中島 武馬	★ 木寺 健一 中島 武馬	熊谷 謙治 ★ 山田 周太	浅原 智彦 ★ 内山 迪子		
リハビリテーション科	浅原 智彦	中島 武馬	木寺 健一	山田 周太	内山 迪子		
形成外科	藤岡 正樹 石山 智子		福井 季代子 石山 智子	藤岡 正樹	福井 季代子		
産婦人科	梅崎 靖 福田 雅史	安日 一郎 山下 洋	菅 幸恵 杉見 創 産褥1ヶ月検診(午後)	楠田 展子 福岡 操 産褥1ヶ月検診(午後)	安日 一郎 菅 幸恵		
泌尿器科	★ 大仁田 亨 ★ 松屋 福蔵		★ 松屋 福蔵	★ 山崎 安人	★ 大仁田 亨		
移植後フォローアップ外来	松屋 福蔵		松屋 福蔵				
耳鼻咽喉科	田中 藤信 奥 竜太 久永 将史	加瀬 敬一	田中 藤信 奥 竜太 久永 将史	奥 竜太	加瀬 敬一 田中 藤信		
眼科	稲本 美和子 諸岡 美智子 木下 明夫 高畑 太一 土井 祐介	稲本 美和子 諸岡 美智子 木下 明夫 高畑 太一 土井 祐介		稲本 美和子 諸岡 美智子 木下 明夫 高畑 太一 土井 祐介	稲本 美和子 木下 明夫 高畑 太一 土井 祐介		
放射線科		溝脇 貴志 放射線治療			溝脇 貴志 放射線治療		
麻酔科(漢方)(午前のみ)		谷口 美和(院内紹介のみ)					

※当院は地域医療支援病院です。初めて受診される場合は、原則、紹介状が必要です。『かかりつけ』等からの紹介状をお持ちいただきますようお願いいたします。紹介状なしで受診を希望される患者さんにつきましては、診察料とは別に保険外併用療養費として4,320円をご負担いただきます。特に、専門外来の受診には予約が必須です。お近くまたはかかりつけの医療機関にご相談いただき、『初診予約票』と『紹介状(診療情報提供書)』を用意してからご来院ください。

【予約受付時間】月～金 8:30～16:30(16:30以降については、翌日の取扱いとなります)

【休診日】土曜日、日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)

独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 地域医療連携室

問い合わせ・資料請求・予約; TEL.0120-731-062 FAX.0120-731-063

## 理念

高い水準の知識と技術を培い  
さわやかな笑顔と真心で  
患者さん一人一人の人格を尊重し  
高度医療の提供をめざす

## 長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実に、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 絶対に断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する